※令和４年度以降入学生用

学校番号	403

令和５年度　美術科

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	高校生の美術２　（日本文教出版）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

■美術Ⅰの内容を踏まえて「自然や社会との関わりを掘り下げて創造的に表現する絵画・彫刻」「自然・自己・社会などを見つめ、生活をより豊かにすることを考えてデザインをする」「自然・自己・社会などを深く考察して表現する映像メディア表現」「時代・民族・風土・宗教などの相違を汲み取り、美術文化の理解を深める鑑賞」の４つの分野について年間を通して学習します。
■授業の進め方としては、導入時に各単元の学習内容についての意図や歴史的背景、美術理論などを、プリント等を交えて解説します。また具体的な参考作品や画像資料などを提示して、それらも発想の手がかりとして制作してもらいます。画材の扱い方や表現技法、色彩や構成の考え方については個別にも指導して行きます。また互いの作品を鑑賞し批評することで、自己と他者の表現や考えの違いを客観的に見つめ、認め合う力も養います。
■学習の到達度は、題材に基づいて制作された作品と制作プロセス、授業態度、制作・鑑賞レポートなどで評価します。
■美術Ⅰに比べて、素材の加工には危険が伴う道具を使うことがあります。正しい使い方を身につけ、自身と周囲の安全に留意する意識も身につけてください。

２　学習の到達目標

美術Ⅰで培った造形力や観察力を土台に、創造的で幅広い美的体験を通じて個性豊かな表現力を獲得し、感性と鑑賞能力を高める。日本の伝統的表現用いた課題にも取り組み、歴史的な側面からも美術文化を考察し、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる。
① 美術文化に関心を持ち知識を深める。また、その良さについての理解を深め、自ら表現する技能を養う。（知識及び技能）
② 創造的な美術の表現をするために必要な思考や判断を養う。（思考力、判断力、表現力等）
③ 色やかたちの美しさが生活の質につながることを理解し、ものの見方、感じ方、考え方を深め、主体的に表現することや鑑賞の能力や人間性を養う。（学びに向かう力、人間性等）

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や伝統的な美術文化にも関心を持ち、知識を深めている。 ・なぜ美しい形や色がと感じるかを理論的に身に付けている。 ・美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	・感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な判断を行い、意図に応じて、表現方法を工夫している。	色やかたちの美しさが生活の質につながることを理解し、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	オリエンテーション	・教科書の内容を読み、その中にある作品を抽出して、それについての感想レポートを書く。	a:　多様な表現方法や歴史背景について関心を持ちながら、主体的に作品を鑑賞し、創造活動の喜びを感じようとしている。 ｃ：　美術作品の良さやその美しさを創造的に味わっている	レポート 振り返りシート		レポート
	クロッキー	・人物クロッキー	a：画面の大きさに応じた人物を描くことができる。 ｂ：人体の持つ動勢を感じながら、創造的に対象を表現できている。 ｃ：表現方法に工夫がみられる	作品	作品	授業態度 作品
	オリジナルエコバックをデザインしよう	・シルクスクリーンで刷られた作品の鑑賞 ・いろいろなロゴタイプやロゴマークの鑑賞 ・アクリル絵の具を使い、自分の名前かイニシャルを 2 色使ってデザインする ・シルクスクリーン(孔版)について学習する ・エコバックやクロッキーブックの表紙、ケント紙に刷ってみる	a:　：シルクスクリーンの技法を身に付け美しく刷ることができる。同じデザインであっても、色彩の変化によって 印象が変わることを実感し、デザインの歴史を理解しようとする。 b:　モチーフから感じたものや美しさを見つけ出し、紙の扱いにも工夫を凝らし、創造的に画面構成できている。 c:　ロゴタイプやロゴマークに関心を持ち、主体的に表現することに取り組んでいる。	作品 製作途中の作品 振り返りシート	作品 製作途中の作品 アイディアスケッチ	作品 製作途中の作品
	日本の美術、発見！	・絵巻物、障壁画、浮世絵などの作品から、班で1作品選び、模写する。また、同時代の外国の美術作品を一つ上げ、模写する。その 2 点を比較する。表現の特徴や工夫について話し合い、まとめる。 ・班ごとに発表する。	a:日本の伝統的な美術の表現の特質や様式、主題や表現方法、日本及び諸外国の美術文化について理解を深めている。 b：グループごとの話し合いで役割分担ができ、プレゼンテーションのために協力ができる。 c:テーマに沿った発表ができる。	作品 製作途中の作品 振り返りシート	作品 製作途中の作品 プレゼンテーション	作品 製作途中の作品 プレゼンテーション

※令和４年度以降入学生用

２学期	クロッキー	・人物クロッキー	a：画面の大きさに応じた人物を描くことができる。 ｂ：人体の持つ動勢を感じながら、創造的に対象を表現できている。 ｃ：表現方法に工夫がみられる	作品	作品	授業態度 作品
	フィギュアをつくろう	・自分自身でテーマを決め自分自身を題材にポーズを考える。 ・2 人1組で協力しポーズをとり描きあう。 ・台座にアルミ芯をさし、麻ひもを巻きそれを芯として石粉粘土で制作する。 ・アクリル絵の具、ニスで着色する。	a:自分自身の個性が表せるポーズを選択している。 b:形の美しさや色の組み合わせの美しさを表現出来ている。また、それが本人の個性と合致している。 c:意欲的に取り組み、形や色に工夫がみられる。	アイディアスケッチ 作品 制作途中の作品 振り返りシート	作品 制作途中の作品	授業態度 作品
	金岡高校 30 秒 CM	・グループになり、アイデアスケッチ（絵コンテ）を作成する。 ・班で協力してカメラで撮影をする。 ・コンピューターで編集を行う。 ・相互鑑賞プレゼンテーション	a:映像メディアの特性を踏まえ、目的を基に主題を生成し、視点や動きなど視覚的要素を工夫して表現の構想を練っている。カメラやコンピューター、プロジェクターなどの様々な用具の特性を理解し、効果的な表現方法や編集を工夫して表現している。 ｂ:映像メディア表現の特質や視覚的効果を生かした独自の表現効果などを感じ取り、作品の主題や作者の表現意図、効果的な表現の工夫などを読み取り、作品や作者について理解している。 c:目的を基に写真やコンピューターなど映像メディアの特性を生かして表現することに関心をもち、表現や鑑賞の活動に主体的に取り組もうとしている。	アイディアスケッチ 作品 制作途中の作品 振り返りシート	作品 制作途中の作品	作品 制作途中の作品 授業態度

※令和４年度以降入学生用

３学期	クロッキー	・人物クロッキー	a：画面の大きさに応じた人物を描くことができる。 ｂ：人体の持つ動勢を感じながら、創造的に対象を表現できている。 ｃ：表現方法に工夫がみられる。	作品	作品	授業態度 作品
	デッサン	・身近なものを描く	a: 形を正確に表現できている。 b:感じたことを画面に鉛筆で表現している。 c:意欲的に表現できている。表現方法に工夫がみられる。	作品 制作途中の作品 振り返りシート	作品 制作途中の作品	授業態度 作品 制作途中の作品
	自画像	・自画像の鑑賞 ・17歳の自分を題材に、アクリル絵具を用いてキャンバスに描く （鏡を見て描く、写真を見て描く、自分自身を投影したものを描く、のいずれかを選択する）	a: 意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、主題を追及して表現している。他の生徒の作品などのよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、理解を深めている。 b: 主題に応じて形体、色彩、構成などを工夫して創造的な表現を行っている。 c: 自己の内面を見つめて表現することに関心を持ち、表現や鑑賞の活動に主体的に取り組もうとしている。	作品 制作途中の作品 振り返りシート	作品 制作途中の作品	授業態度 作品 制作途中の作品

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度